

【大郷町】
校務DX計画

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づき、校務の効率化を実現するため、次に掲げる事項について重点的に推進する。

1 クラウドサービスの活用

【現状と課題】

本町では、クラウドサービスについて、主に学習用として「Google Workspace for Education」を導入し、学習用途でのクラウドサービスの整備がなされている。

また、校務処理専用のクラウドサービスについては令和6年4月より導入済みであり、データ等の移行等についても完了している。

【課題解決に向けた取り組み】

学校におけるクラウド環境については現在可能な整備が完了した状況にあるが、運用上の問題や業務の最適化など、課題は山積している状況にあり、好事例やマニュアル等を掲載するICTサポートサイトの充実、ICT支援員による研修等を強化しながら、クラウドサービスのさらなる利用促進を図り、校務の効率化を進める。

また、紙出力が残る各種通知・案内等をはじめ、会議資料の共有について、クラウドサービスの活用を前提とし、迅速で漏れのない情報共有と効率的なペーパーレス化の実現を目指す。

2 ゼロトラスト環境の構築

【現状と課題】

本町で導入したクラウド型校務支援システムや各種データについては、クラウドサービスによるパスワード管理及び2要素認証により運用されており、高いセキュリティ環境のなか、成績処理、出欠管理、保健管理や指導要録・通知表の作成など、様々な校務で利用されている。

一方で、これらの作業は職員室に固定された校務用端末からのアクセスを前提としており、各教室や自宅、出張先といった職員室以外の環境において校務処理ができないなどの教職員一人一人の事情に合わせた柔軟な働き方の実現において課題がある。

また、今後の各種帳票やデータの共通化に向け、対応が必要となることが見込まれる。

さらに、学習系と校務系ネットワークの共有や、GIGAスクール構想化で生成されてきた学習系データの取り扱いについて、円滑なデータのやり取りやデータ管理、セキュリティ対策に様々な課題を残している。

【課題解決に向けた取り組み】

ゼロトラストの考え方に基づきアクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、適切な勤務時間管理等を前提とした校務のロケーションフリー化を実現し、働き方の選択肢を増やすとともに、安全で働きやすい環境を実現するため、学校関係者や町の情報セキュリティ担当等との連携を図り、先進事例等を踏まえながら、校務系・学習系ネットワークの統合的な運用に向け環境整備を進める。

また、保護者連絡アプリをはじめとした汎用クラウドツール等と連携を検討し、教職員や校内・校外の学校関係者の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とするクラウドサービスの実現を目指す。

3 押印・FAXの見直し

【現状と課題】

文科省が発出した、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果では、多くの学校でFAXの利用や押印・署名が必要な書類が取り扱われており、多くの非効率を生み出している結果が示され、本町においては令和5年度の押印文書見直し後も、同様の状況が散見されている。

【課題解決に向けた取り組み】

FAX・押印の原則廃止に向けて、定期的な検討と見直しを行うことで、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。